

文化人類学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
文化人類学特論Ⅰ	国際移住の人類学	2	長坂 格	前期集中 その他 連講	文化人類学特論Ⅰ
文化人類学特論Ⅱ	現代ロシアの呪術リバイバル	2	藤原 潤子	前期集中 その他 連講	文化人類学特論Ⅱ
文化人類学研究演習Ⅰ	文化人類学の視野と思考	2	川口 幸大	前期 月曜日 3講時	文化人類学研究演習Ⅰ
文化人類学研究演習Ⅱ	文化人類学の視野と思考	2	越智 郁乃	後期 月曜日 3講時	文化人類学研究演習Ⅱ
文化人類学研究演習Ⅲ	英語古典原書講読	2	沼崎 一郎	前期 火曜日 3講時	文化人類学研究演習Ⅲ
文化人類学研究実習Ⅰ	フィールドワークの理論と方法	2	沼崎 一郎	前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 4講時	文化人類学調査実習Ⅰ
文化人類学研究実習Ⅱ	フィールドワークの理論と方法	2	沼崎 一郎	後期 水曜日 3講時 後期 水曜日 4講時	文化人類学調査実習Ⅱ

科目名：文化人類学特論Ⅰ／ Cultural Anthropology(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：長坂 格

コード：LM98815 科目ナンバリング：LGH-CUA601J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：文化人類学特論Ⅰ】

1. 授業題目：国際移住の人類学

2. Course Title (授業題目)：Anthropology of Transnational Migration

3. 授業の目的と概要：本講義では、国際移住現象を、文化人類学の観点から検討する。フィールドワークを方法とする文化人類学では、なぜ人が移動するのかだけでなく、歴史的、社会的、文化的な文脈のなかで人々が地理的移動をどのように経験したのかを問うてきた。この講義では、文化人類学、あるいはその周辺分野における移住研究のなかで提起されてきた概念や分析枠組みを紹介したうえで、担当者が収集した調査資料を考察していく。そうすることで、受講生が、文化人類学的移住研究の方法と諸概念を習得し、自らの研究実践においてそれらを活用することができるようにすることを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course examines global migration from cultural anthropological perspectives. Drawing on data obtained through fieldwork, anthropologists have asked not only why people move but also how they have experienced geographical movements within particular historical, social and cultural contexts. This course introduces important concepts and analytical tools in anthropological studies on migration and analyzes the data that the instructor obtained through his fieldwork.

5. 学習の到達目標：

- (1) 現代世界の諸問題への文化人類学的アプローチを習得する。
- (2) 国際移住研究の諸概念を習得する。
- (3) 調査資料の分析方法を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：

- (1) Learn anthropological approaches to social issues in contemporary world
- (2) Learn theoretical tools and concepts used in studies on global migration
- (3) Learn how to analyze data obtained through fieldwork

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 文化人類学と移住
2. グローバルな移住現象の概要
3. エージェンシー、ストラテジー、ナビゲーション
4. トランスナショナリズム
5. ネットワーク
6. 考察：ネットワークの政治経済学的分析
7. ジェンダー1：移動する女性
8. 考察：グローバル・ケア・チェーンと女性
9. ジェンダー2：移動する男性
10. 考察：グローバル・ケア・チェーンと男性
11. 子どもの移動
12. 考察：1.5世代の移動経験
13. 日本へ／からの国際移住
14. 考察：多文化共生の経験
15. まとめ

8. 成績評価方法：

- 講義へのコメント（50%）
- 論述試験（50%）

9. 教科書および参考書：

カースルズ、ミラー『国際移民の時代』名古屋大学出版会
バートベック『トランスナショナリズム』日本評論社
伊藤るり・足立真理子『国際移動と連鎖するジェンダー』作品社

10. 授業時間外学習：講義で提示された文献を読み、復習する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：文化人類学特論Ⅱ／ Cultural Anthropology (Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：藤原 潤子

コード：LM98816 科目ナンバリング：LGH-CUA602J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：文化人類学特論Ⅱ】

1. 授業題目：現代ロシアの呪術リバイバル
2. Course Title (授業題目)：The revival or magic in post-socialist Russia
3. 授業の目的と概要：ソ連時代、ロシアでは宗教を否定する無神論政策が行われ、伝統的な民俗文化である呪術も「迷信」として否定された。近代的な科学的な世界観が宣伝され、呪文を唱えて治療を行う呪術師たちは逮捕の対象にさえなった。しかし 70 年に及ぶ無神論政策を経ても、呪術が死に絶えることはなく、1991 年の社会主義政権の崩壊後は伝統文化復興のうねりの中でリバイバルしている。この授業ではエスノグラフィーや民間口頭伝承、映像資料を通じて、こうした現代ロシアにおける呪術リバイバルと、その背景について知ることを目的とする。
また、グループワークやパワポを使ったプレゼンを通して、能動的な学びの姿勢を身につけてほしい。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will learn about the revival of magic in post-socialist Russia and its background through ethnography, oral tradition and video materials.
5. 学習の到達目標：・現代ロシアの呪術信仰とその背景を知る。
・グループワークやパワポを使ったプレゼンに慣れる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Learn about the revival of magic in post-socialist Russia.
Become familiar with group work and presentation.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 - 2-4. 19-20 世紀初頭のロシアの民間信仰
 - 5-7. ソ連時代の社会状況と呪術
 8. ポストソ連時代の宗教状況
 - 9-10. 現代ロシアの呪術師と超能力者たち
 - 11-12. ロシア正教会と呪術
 - 13-14. マスメディアと学術研究の影響
 15. まとめ

あらかじめ、指定する資料をよく読んできてください。一部の授業では、それをふまえて、授業時間中に小グループでディスカッションしながら 5-10 分程度の資料紹介パワポを作成し、発表することを求めます。
8. 成績評価方法：
プレゼンテーション (50%)
リアクションペーパー (50%)
9. 教科書および参考書：
藤原潤子『呪われたナターシャ：現代ロシアにおける呪術の民族誌』(2010 年、人文書院) ほか。必要箇所を Web で配布しますので、購入の必要はありません。
10. 授業時間外学習：指定する資料をよく読んでおくこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：文化人類学研究演習 I / Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LM11310 科目ナンバリング：LGH-CUA605J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：文化人類学研究演習 I】

1. 授業題目：文化人類学の視野と思考
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I
3. 授業の目的と概要：文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To examine key concept and interest of cultural anthropology through the research of the theory and ethnography
5. 学習の到達目標：文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。
最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To complete reference and review for your research topic through the investigation into previous studies
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 研究動向の整理と検討
 3. 研究動向の整理と検討
 4. 文献講読
 5. 研究動向の整理と検討
 6. 研究動向の整理と検討
 7. 研究動向の整理と検討
 8. 文献講読
 9. 研究動向の整理と検討
 10. 研究動向の整理と検討
 11. 研究動向の整理と検討
 12. 文献講読
 13. 研究動向の整理と検討
 14. 研究動向の整理と検討
 15. 最終報告
8. 成績評価方法：
発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]
9. 教科書および参考書：
授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学研究演習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LM21307 科目ナンバリング：LGH-CUA606J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：文化人類学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：文化人類学の視野と思考
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I
3. 授業の目的と概要：文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Closely examine theories and ethnographic research in cultural anthropology and analyze the trends in major conceptualizations and concerns of the discipline.
5. 学習の到達目標：文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。
最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Systematically understand the research trends in cultural anthropology and develop one's own research interest.
Create working bibliography and complete a literature review regarding one's own research theme.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 研究動向の整理と検討
 3. 研究動向の整理と検討
 4. 文献講読
 5. 研究動向の整理と検討
 6. 研究動向の整理と検討
 7. 研究動向の整理と検討
 8. 文献講読
 9. 研究動向の整理と検討
 10. 研究動向の整理と検討
 11. 研究動向の整理と検討
 12. 文献講読
 13. 研究動向の整理と検討
 14. 研究動向の整理と検討
 15. 最終報告
8. 成績評価方法：
発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]
9. 教科書および参考書：
授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学研究演習Ⅲ／ Cultural Anthropology(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LM12310 科目ナンバリング：LGH-CUA607J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：文化人類学研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：英語古典原書講読
 2. Course Title (授業題目)：Classics in Cultural Anthropology
 3. 授業の目的と概要：文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版（1938）の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な訳読の技法を習得する。
今セメスターは、第10章を訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のある Free Press 版（1965）を用いる。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Read and translate selected chapters from Franz Boas, The Mind of Primitive Man (1938) and learn the academic way of understanding the classics.
- This semester, we will read and translate chapters 6 through 8 using the 1965 version of the text.
5. 学習の到達目標：(1) 学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。
(2) 文化人類学の古典の息吹に触れる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Acquire academic translation skill.
2. Appreciate a classic in anthropological literature.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業はオンデマンド方式と双方向授業とを組み合わせでオンラインで実施する予定です。

授業計画

- 第1回：導入、授業法式の説明
- 第2回：「文学部的」訳出法
- 第3回：テキスト訳出 P. 162-163
- 第4回：テキスト訳出 P. 164-165
- 第5回：テキスト訳出 P. 166-167
- 第6回：テキスト訳出 P. 168-169
- 第7回：テキスト訳出 P. 170-171
- 第8回：テキスト訳出 P. 172-173
- 第9回：テキスト訳出 P. 174-175
- 第10回：テキスト訳出 P. 176-177
- 第11回：テキスト訳出 P. 178-179
- 第12回：訳稿検討その1 P. 162-167
- 第13回：訳稿検討その2 P. 168-173
- 第14回：訳稿検討その3 P. 174-179
- 第15回：総括論

受講生は毎回、指定の箇所の訳文を 구글 クラウドで提出し、後日見本訳とその解説を参照して訳文を修正し、再提出する。

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：
下訳の作成と修正作業（50%）、訳稿の検討への参加（50%）による。
9. 教科書および参考書：
Franz Boas, The Mind of Primitive Man, Revised Edition, with a new foreword by Melville J. Herskovits. New York: Free Press, 1965.
10. 授業時間外学習：毎週、2 頁ほどの英文の下訳を作成する。
授業での議論に基づいて、下訳を修正する。
訳注作成のための資料収集と分析を行う。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
Prepare translations for 2 pages of the text each week.
Participate in classroom discussion on translations.
Collect and analyze materials for creating footnotes to translations.

科目名：文化人類学研究実習 I / Cultural Anthropology(Field Research) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LM13302 科目ナンバリング：LGH-CUA608J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：文化人類学調査実習 I】

1. 授業題目：フィールドワークの理論と方法

2. Course Title (授業題目)：Theory and Method of Fieldwork

3. 授業の目的と概要：文化人類学的調査に必要な基礎技術を、実際の訓練を通して習得し、様々な場面での応用について議論を通して学習する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Learn the basic skills needed for anthropological research through training and learn how to apply these skills to various social issues.

5. 学習の到達目標：(1)文化人類学的な調査技法の習得。

(2)文化人類学的な調査技法の応用力の涵養。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Acquire basic skills of anthropological research.

(2) Acquire basic skills for applying anthropological research methods to social issues.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は、クラスルームのドライブを共有して、オンラインで実施する予定です。詳しい説明は、クラスルームのストーリーに掲載します。

授業計画

第1回：導入 授業方法の説明

第2回：研究倫理1 特に人類学的フィールドワークの倫理

第3回：研究倫理2 特に調査報告執筆における倫理

第4回：研究方法1 非参与観察

第5回：研究方法2 参与観察

第6回：研究方法3 非構造的インタビュー

第7回：研究方法4 構造的インタビュー

第8回：研究方法5 ライフヒストリー法

第9回：研究方法6 文献データの収集法

第10回：研究方法7 音声データの収集法

第11回：研究方法8 映像データの収集法

第12回：分析方法1 質的データの分析法

第13回：分析方法2 量的データの分析法

第14回：分析方法3 映像・音声データの分析法

第15回：分析方法4 文字データの分析法

定期試験は実施しない。

なお、この予定は、受講生のニーズに応じて変更する場合がある。

8. 成績評価方法：

平常点（50%）と研究計画書（50%）による。

9. 教科書および参考書：

適宜、教室で指示する。

10. 授業時間外学習：自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

科目名：文化人類学研究実習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Field Research)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時、後期 水曜日 4講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LM23302 科目ナンバリング：LGH-CUA609J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：文化人類学調査実習Ⅱ】

1. 授業題目：フィールドワークの理論と方法
2. Course Title (授業題目)：Theory and Method of Fieldwork
3. 授業の目的と概要：文化人類学的調査結果を報告書にまとめるために必要な基礎技術を、実際の訓練を通して習得し、様々な場面での応用について議論を通して学習する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Learn the basic skills needed for anthropological writing through training and learn how to apply these skills to other types of writing.
5. 学習の到達目標：(1)文化人類学的な調査技法の習得。
(2)文化人類学的な調査報告執筆法の習得。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Acquire basic skills for fieldwork
(2) Acquire basic writing skills for anthropological reports.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業方式については、学期開始直前にアナウンスします。

授業計画

- 第1回：導入 授業方法の説明
第2回：エミックとエティック 「事実」と「解釈」の多重性
第3回：民族誌的記述1 参与観察の記述
第4回：民族誌的記述2 インタビューの記述
第5回：民族誌的記述3 文献資料の利用
第6回：民族誌的記述4 映像・音声データの利用
第7回：民族誌的考察1 「事実」と「解釈」
第8回：民族誌的考察2 先行研究との「事実」の対比
第9回：民族誌的考察3 先行研究との「解釈」の対比
第10回：民族誌的考察4 「事実」と「解釈」の総合的考察
第11回：論文執筆法1 「事実」と「解釈」の書き分け
第12回：論文執筆法2 論文の文体
第13回：論文執筆法3 論文の形式
第14回：論文執筆法4 パラフレーズの活用法
第15回：論文執筆法5 直接引用の活用法
定期試験は実施しない。

授業はオンラインで実施する。具体的には、グーグルクラスルームのドライブ上でファイルを共有し、同時に閲覧・編集しながらチャットによる議論を行う。

なお、この予定は、受講生のニーズに応じて変更する場合がある。

8. 成績評価方法：
平常点（50%）と研究実習報告書（50%）による。
9. 教科書および参考書：
適宜、教室で指示する。
10. 授業時間外学習：自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
前期の文化人類学調査実習Ⅰを必ず履修していること。
授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。